



二次元コードから
閲覧可能です。

学校が子供を 子供が地域を 元気にする!!



文部科学省は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る手引きを出し(2026年3月)、“はじめに”の中で次のように述べています。「地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う学校内外の様々な活動である『地域学校協働活動』は、未来を担う子供たち一人一人が、幸福や生きがいを感じられる学びを、保護者や地域住民等とともにつくっていくものであるとともに、学びの成果の活用を通じて、地域で人と人とのつながりを作り出すものです。」

ふるさと熟議・拡大熟議を活用して 地域を元気にする活動を行っている 錦清流小学校

ふるさと熟議は、いつごろから始めたのですか。

数年前から、児童・地域・保護者の参加で行っています。低・中・高の3学年に分かれ、「地域を元気にするために、自分たちにできること」をテーマに話し合ってきました。

去年は、低学年は「花いっぱいプランター」のプレゼント。中学年は商店街の空き店舗を使った「秋祭りIN商店街」のイベント。高学年は地域の良さを発信する劇を「きらり発表会」で披露しました。

子供たちの声を聞くと元気になる。活気があったころを思い出した。

錦中学校や宇佐川小学校と一緒に、「拡大熟議」をして、錦町を盛り上げていると聞いたのですが?!

その通りです。去年は「持久走大会を復活してほしい。子供たちが商店街を駆け抜ける姿が見たい。」という地域の皆さんの願いを実現しました。

熟議の中で子供たちは、「地域の方々との活動を通して、元気になってもらいたい。」と考え、持久走大会の後に“地域交流レクリエーション”を企画し、実施しました。モルックとボッチャとグラウンド・ゴルフです。

地域の方が、持久走のコースにたくさん来られ、交通指導して下り安全に走れた。走る力が湧いてきた。 <子供>

地域の方に喜んでもらって嬉しかった。一緒に活動して仲良くなれてよかった。 <子供>

総勢100名集まり、楽しく汗を流すことができた。ぜひ今後も続けてほしい。 <地域住民>

教えたり、教えてもらったりしながら楽しく体を動かすことができて、とても楽しかった。 <地域住民>



「子供たちは、錦町を元気にしたいと、本気で思っているのです。」と話される校長先生は幸せそうでした。“地域の良さを体験的に学ぶことで、地域に対する感謝の気持ちが芽生え、具体的な活動を通して地域に発信することで、地域から感謝される…そこには、”温かい心の連鎖“ができていました。子供や地域住民や教師個人が幸せや生きがいを感じ、錦町全体が幸せや心の豊かさを感じられる、まさにウェルビーイングな学校・地域だと感じました。

